

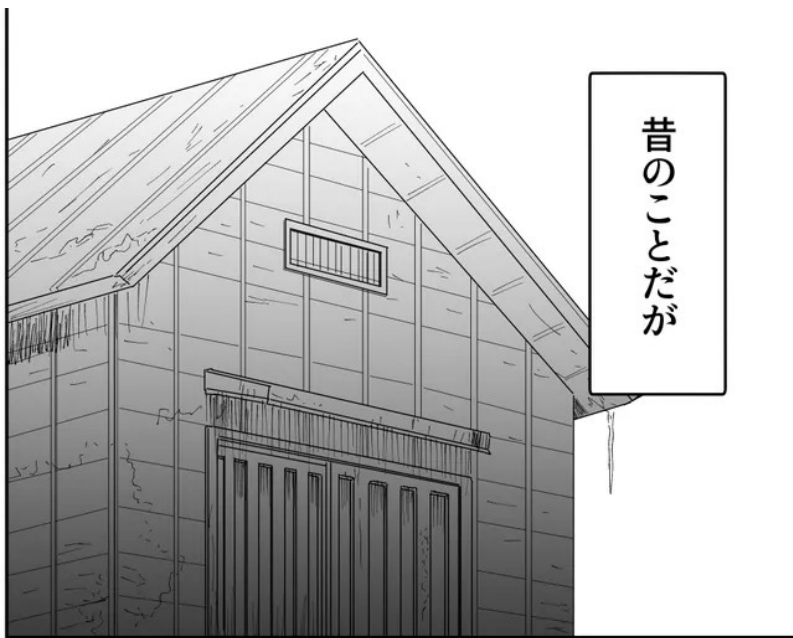




今にも崩れそうなの  
ボロ家に住んでいた

私は金がなく

ガク  
ガク

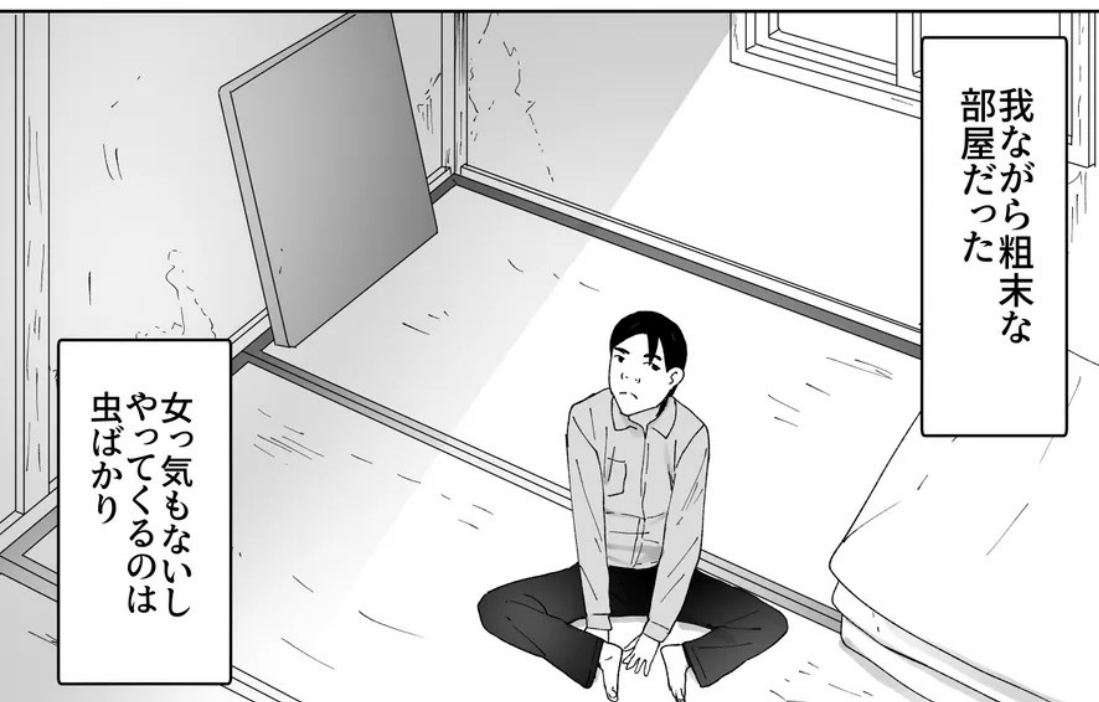


昔のことだが



周りを鬱蒼とした  
雑木林に囲まれ

昼でも薄暗かった  
のを覚えている



我ながら粗末な  
部屋だった

女っ気もないし  
やつてくるのは  
虫ばかり



林の奥には  
崩れそうなの  
鳥居があつたが

家の近くで  
女校生が歩いてた

田畑とヤブ  
しかない町外れ

この辺で見るのは  
珍しい

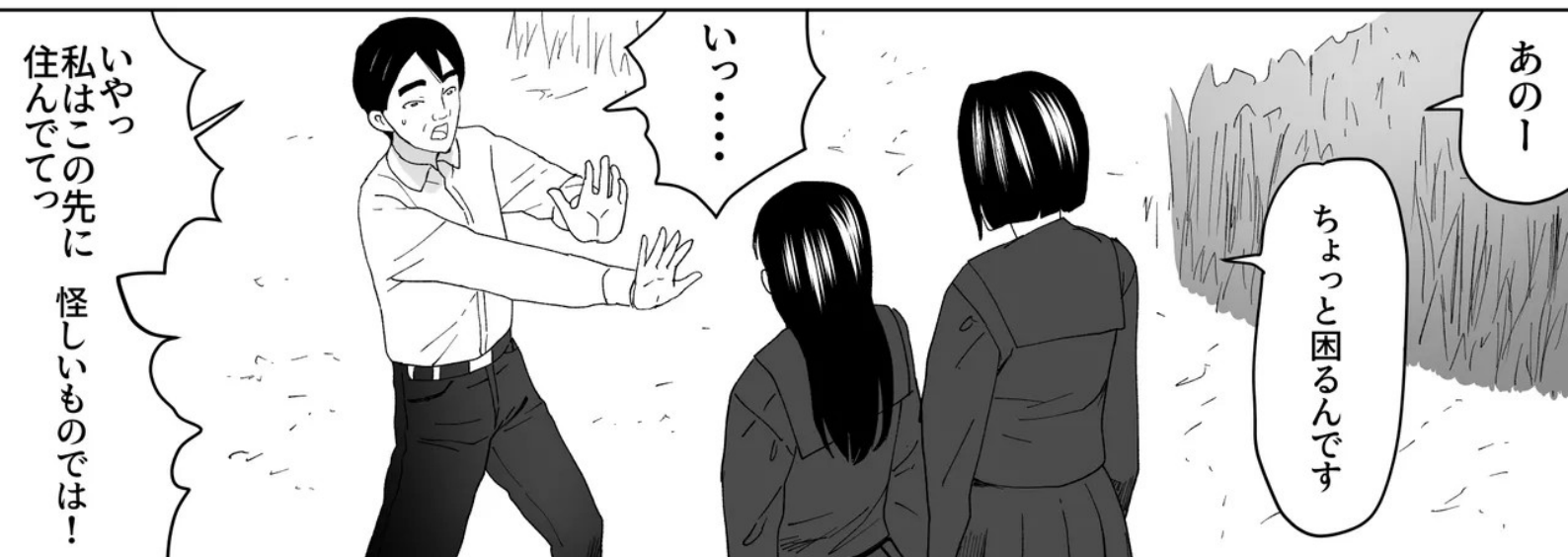
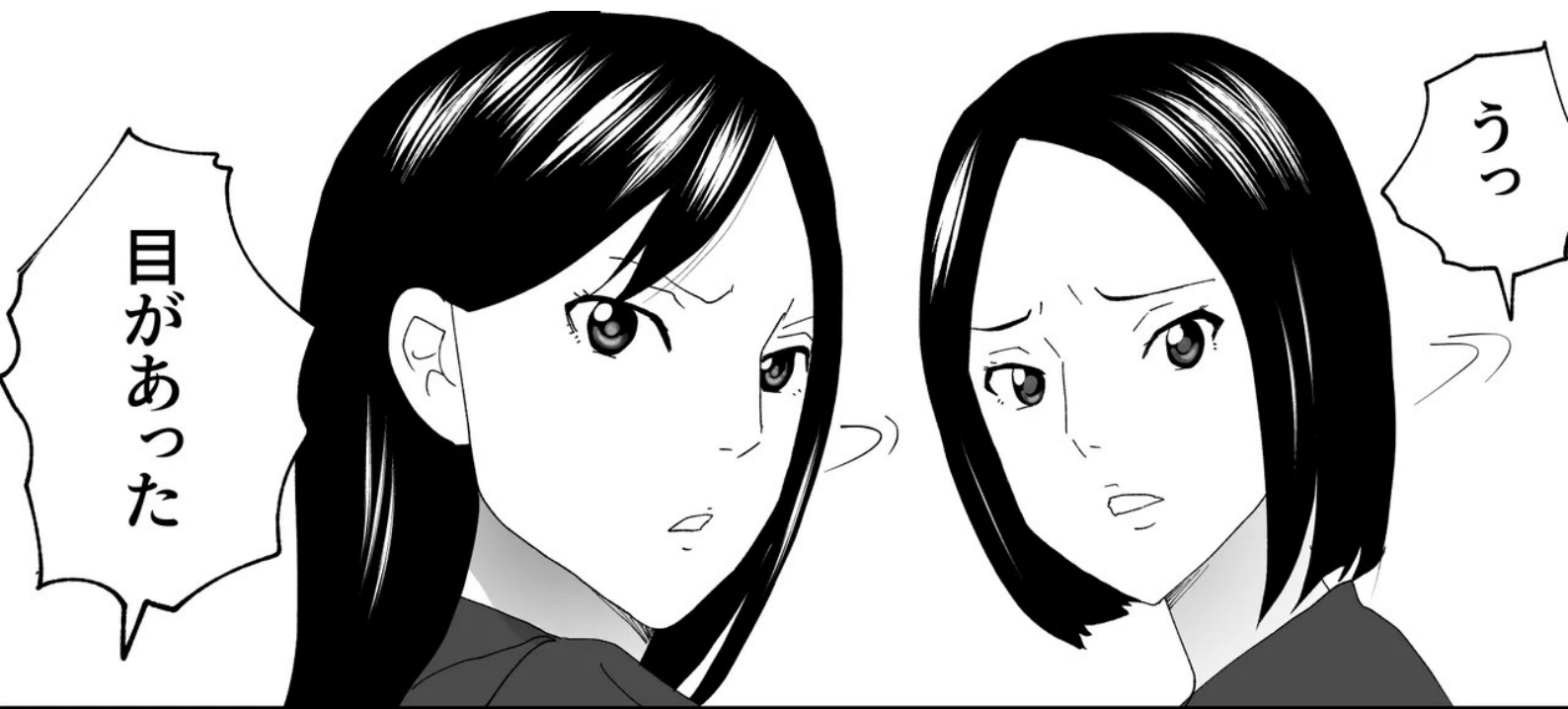
どこの  
学校だろうか

見たこと無いな

何にせよ  
いいこの娘か

身なりをきれいに  
している









若い子が  
あんな場所に  
何の用かね



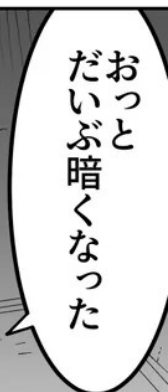
案内した  
廃神社に  
入っていく二人



あの女の子達だ



明かりつけるか



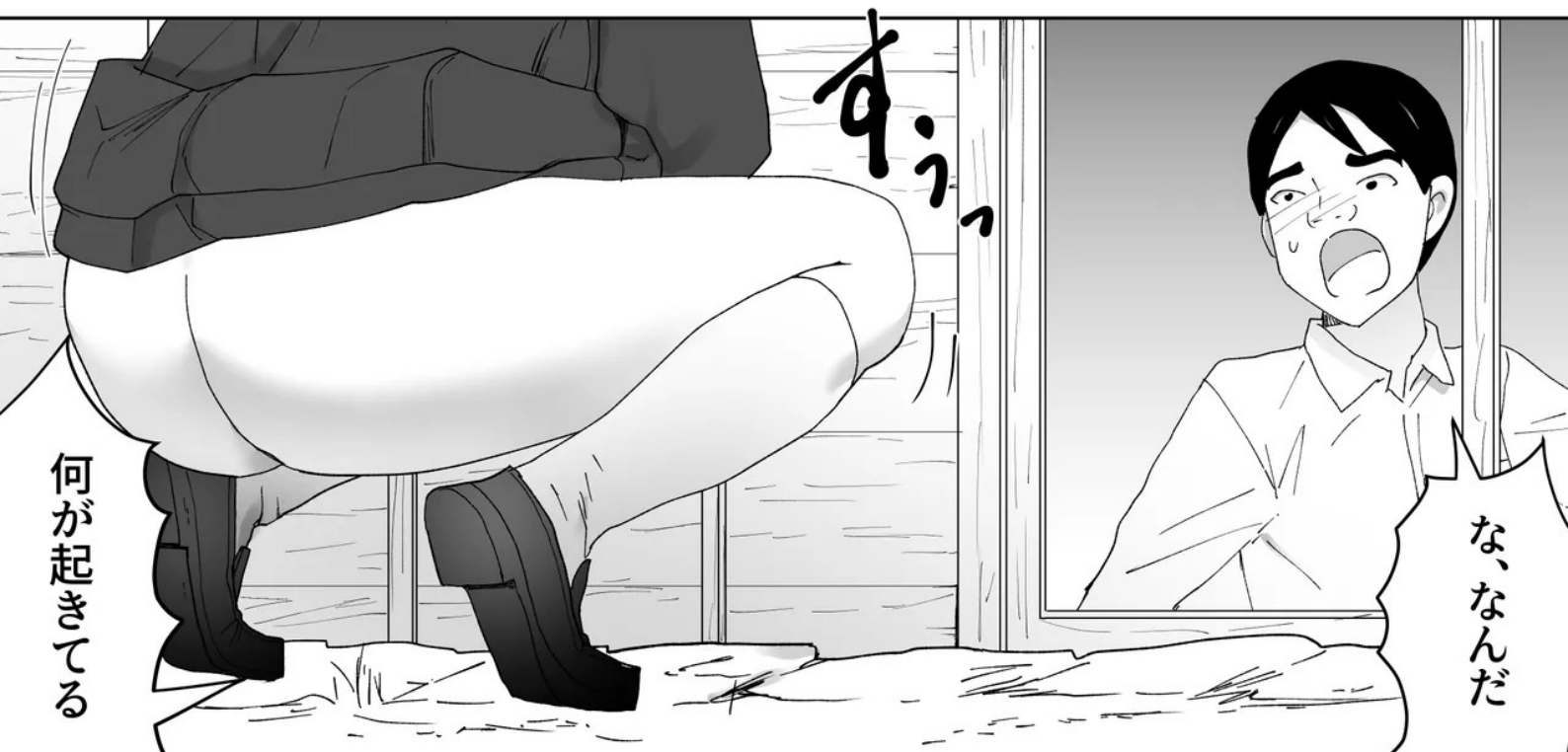
おっと  
だいぶ暗くなった



あ

こんな時間まで  
居たのか





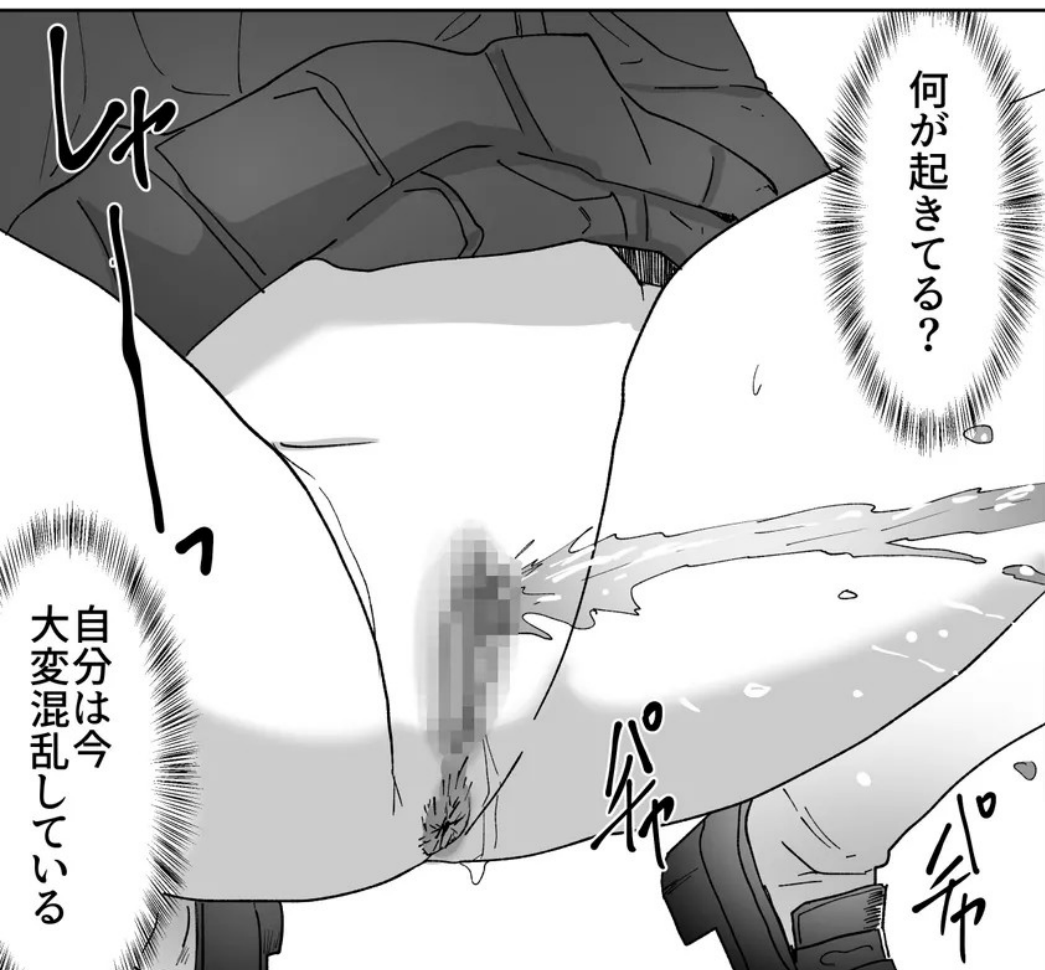
うわわあつ

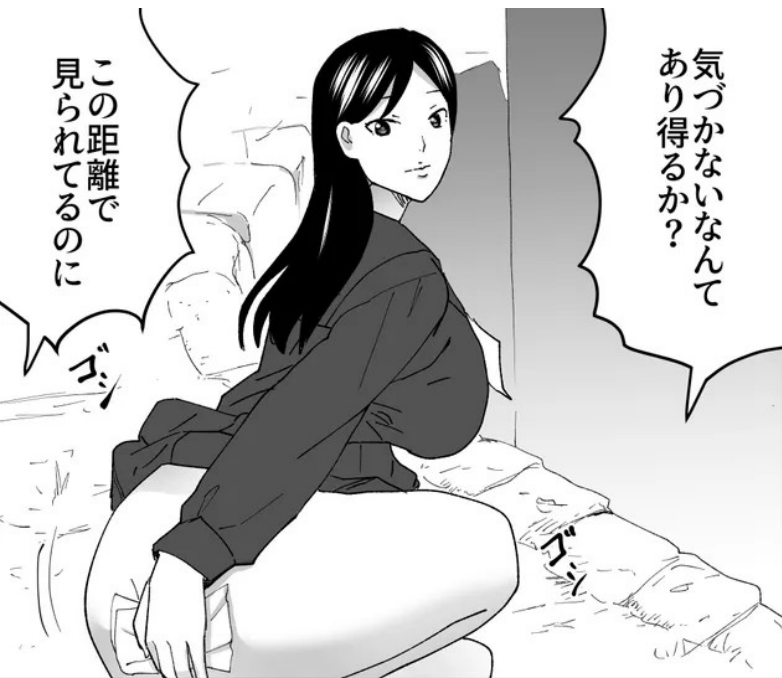
しよ、小便  
始めたぞっ！



何が起きてる？

自分は今  
大変混乱している





この距離で  
見られてるのに

気づかないなんて  
あり得るか?



なんで  
こんな平然と

こつちを全く  
見ない



うわっ

もう一人も  
おしっこ始めた!

まただ  
こちらを気にせず

バキ

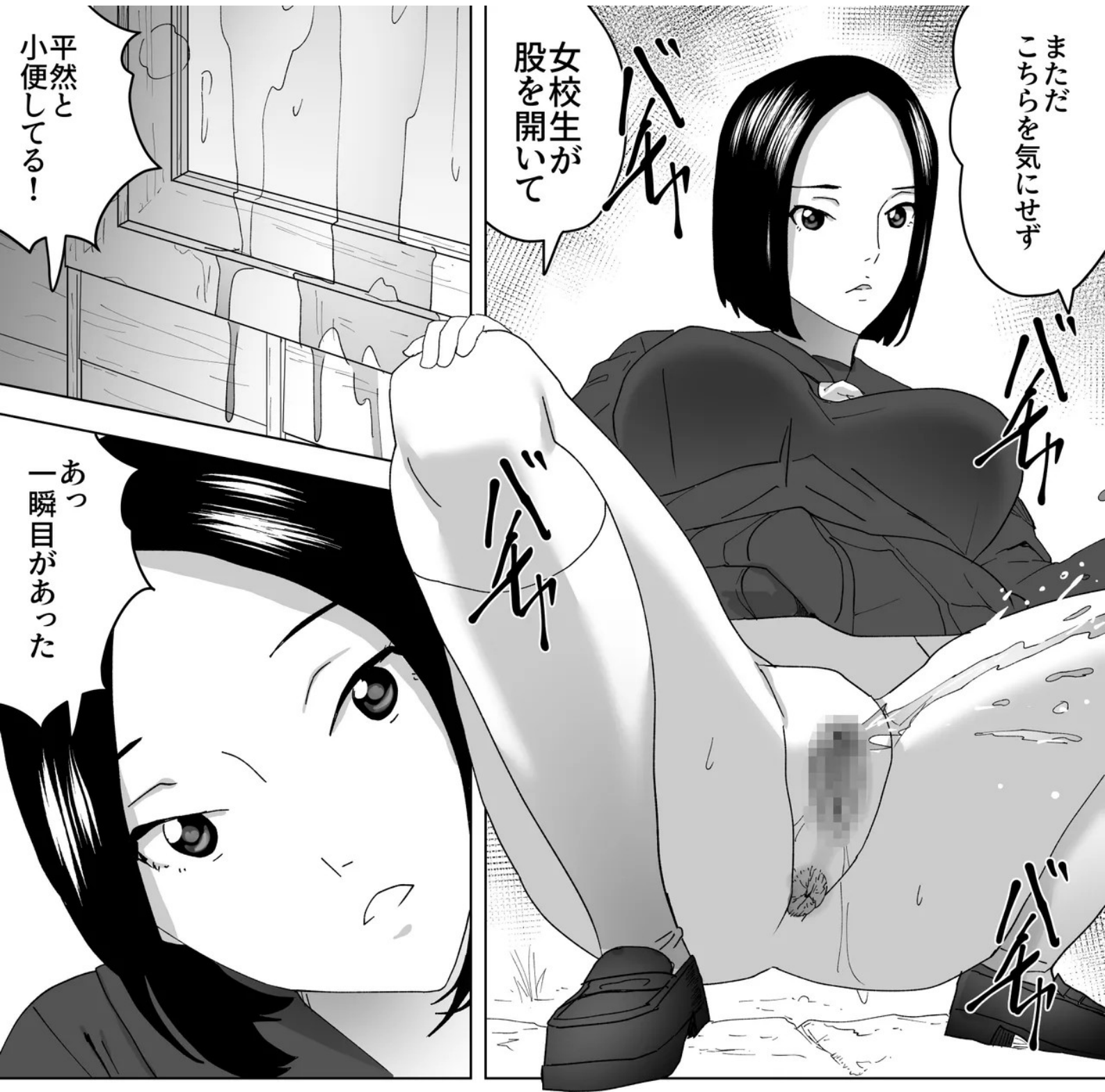
女校生が  
股を開いて

バキ

バキ

平然と  
小便してる！

あっ  
一瞬目があつた



ボロ家が  
便所と間違われたか？  
いやそんなわけは

バキ

バキ

バキ

若い子に部屋の窓へ  
小便されて  
頭が混乱する



翌日も女校生が  
やってきて放尿をした

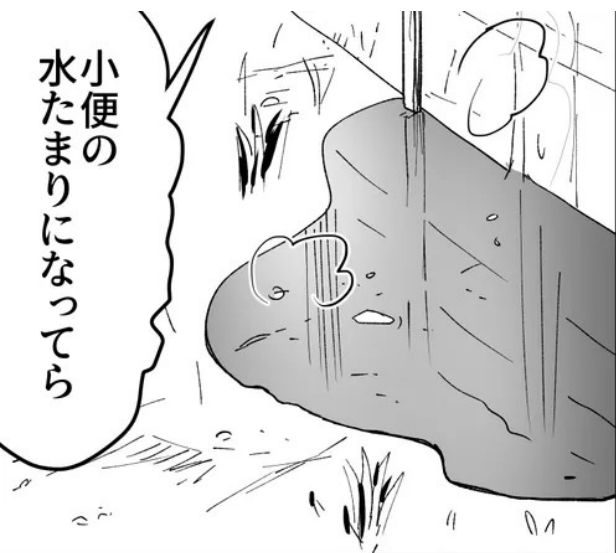
昨日とは  
違う娘

君!やめなさい  
ここは  
便所じゃないぞ!

聞こえてないのか  
反応が弱い

すぐ横に私が  
いるのに性器丸出し

涼しい顔で  
放尿姿をさらす



小便の水たまりになってら



汚えなあ



うわっくせえ

何度も小便されて壁と窓から匂いが取れない



再び「道がわからない」と

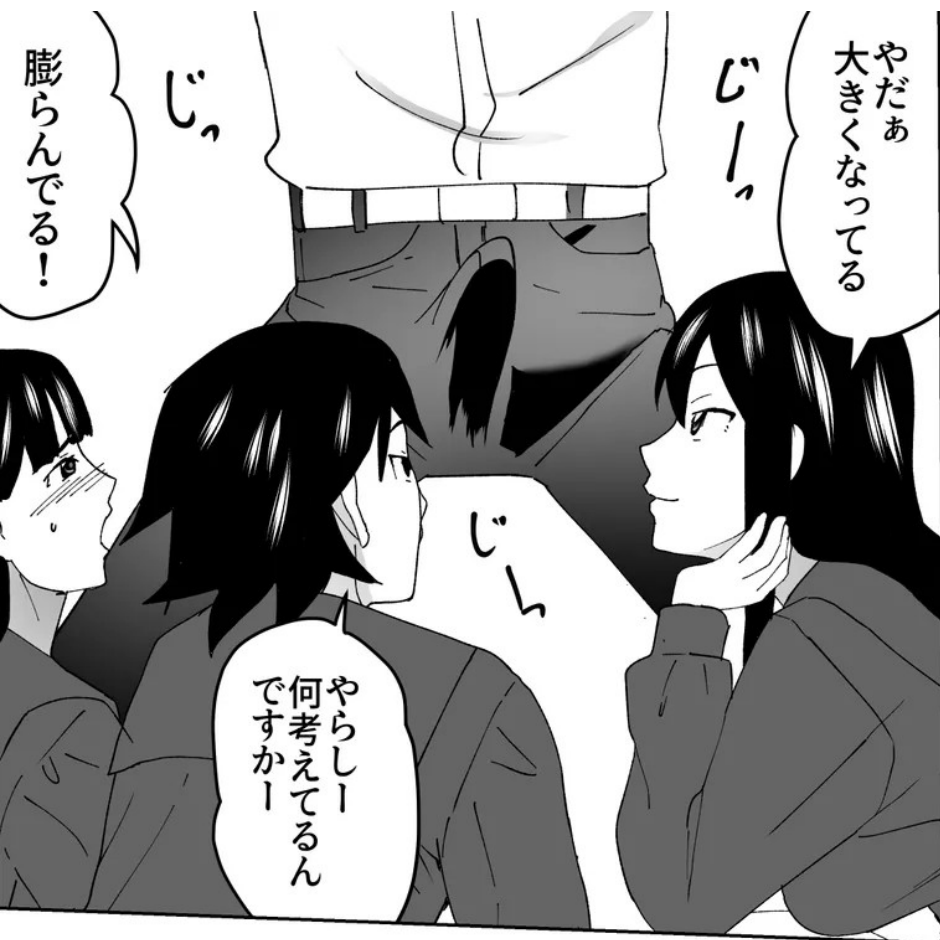
半ば強引に案内する



驚くことに翌日も女校生とはちあわせた

今度は三人昨日とは違う子だ







うわっ  
また来た！

そしてまた  
戻ってきた

小便する気か？  
勘弁してくれよ



女学生を  
神社まで案内する

三人は  
鳥居をくぐって  
奥へと消えた



小水を頭から  
かぶることにな  
ってしまった

止めようと  
表へ出た所で

やめろ！  
部屋が臭くてかなわん！

バキ

実は事前に  
便器を設置した

急造の便所

下は穴をほって  
バケツを置く

女校生は狙い通り  
便器を使ってくれた

便器に溜まっていく汚物は  
湯気を立てる

派手な水音を  
たてて降り注ぐ尿

近づくところを  
チラリと見るだけ

逃げるとか  
隠すとか  
全く無い



彼女らには何が見えてるんだ

フン

バ

バ

個室で一人きり  
落ち着いて排泄  
してるつもりなのか

閉じない口の中に  
糞が

さしずめ  
俺は彼女たちの  
排泄物を処理する便器か

鼻から口から小便が  
入ってくる



ごふっ  
うおっ

ブー

ブー

ブー

ブー

じん

ブー  
ブー  
ブー

糞を食う俺を  
見下す少女の顔

ブー

ブー

ブー

口の中に排便される

いっぱい白いの  
出たあ！

ずっと出てる

便器になりながら  
射精した

ブー  
ブー  
ブー



2人分の  
脱糞を……！  
一気食い

く、苦しい



打ち付けられた  
藁人形に覆われた

大きな木が  
立っていた



すべて出しきると  
彼女らは  
帰っていった

庭先に見える  
廃神社



女校生らが  
訪れた廃神社

何かある

興味に駆られ  
鳥居をくぐった  
さきには